

英国友好親善交流事業に参加して

村田町 木村 僚祐

私は、7月28日から8月9日までイギリスのウェールズに滞在してきました。

私は、滞在する前まで、いろいろ不安に思うことがありました。今まで習ってきた英語がネイティブに通じるのか、また相手の言っていることが聞き取れるのか不安に思っていました。そのほかにも、日本と違う食事やマナーについてホストファミリーと上手く生活することができるのだろうか、など不安を抱えながら、飛行機の中ではほとんど眠れずにイギリスに到着しました。

その後、すぐにバスに乗りホストファミリーが待っている場所へ行き、その後家族と一緒に家へ向かいました。その家族とは初日から打ち解け、すぐに仲良くなりました。いつも朝食はシリアルでメインは昼食と夕食のようで、ほとんど外食していました。前から気になっていた紅茶をよく飲んでいるのかどうかですが、人それぞれようです。主食は米の代わりに馬鈴薯をよく食べました。イギリスでの活動内容で印象に残ったことは、4日目のチャーク城見学、5日目のコンウィ城見学、そして楽しみにしていたロンドン観光です。

チャーク城やコンウィ城は映画を見ているような気分になり、長い歴史を感じました。

ロンドンでは、観光名所として有名なビッグ・ベンやバッキンガム宮殿などを見てまわり歴史的な建造物に、昔のイギリスの権力の大きさや誇りを感じました。

イギリスでの生活を経験して幾つか思ったことがあります。1つ目は、言語についてです。最初は不安でしたが、つたない英語でもジェスチャーなどで通じました。2つ目は、イギリス人の人柄です。お世話になった人はみんな親切な人ばかりでした。最後に、この事業を通して一番思ったことは、私の家族とイギリスでお世話になった方々にとっても感謝しています。ありがとうございました。

ホームステイ

村田町 櫻中 宏太

僕は今回のイギリスへのホームステイで貴重な経験を沢山しました。出発前から見たこともない異国の風景、まだ知らないイギリスの文化、会ったこともないホストファミリーや仲間達など想像がつかないイギリスの生活に不安と期待でいっぱいでした。飛行時間がとても長く、複雑な気持ちでイギリスに着いたのを覚えています。僕のペアは17歳のキャメロン・ゲミル、男の子です。初めて会った彼は笑顔でとても優しい人という印象でした。キャメロンのお父さんもとてもフレンドリーで面白い人でした。2人に会ってリラックスでき不安な気持ちが軽くなりました。イギリスはとても綺麗な国でした。大自然の中で沢山の動物たちに囲まれて、優雅で素晴らしい時間を過ごせました。僕が一番イギリスで驚いたのは、お店のレジの人にもハロー！と話しかけ、会計が終わるとグッバイと挨拶をする事でした。日本では知人程度にしか挨拶をしませんがいギリスではレジ係にも気さくに挨拶をする習慣があるようです。僕は良い習慣だと思いました。

日本にキャメロンと一緒に帰国した僕が最初に感じたことは、やはり日本食は美味しいということです。僕はキャメロンに日本のことを沢山知ってもらいたいと思い、日光東照宮や江戸村へ家族旅行に行きました。僕がいギリスで驚いたように彼も日本の見るもの全てに驚いていました。キャメロンや仲間たちと一緒に浴衣を着て花火を見たりお祭りに出かけたりと夏を満喫することができました。

僕はキャメロンと出会って約3週間、毎日一緒に過ごしました。ずっと笑顔でいれました。また、僕の家族も毎日笑いが絶えませんでした。彼らとの別れは笑いの数だけ涙がありました。僕の誕生日は8月21日でみんなとお別れの日が16歳の誕生日でした。みんなにバースデイソングを歌ってもらい、今まで以上の最高の誕生日となりました。今回、僕がいギリスへ行くきっかけとなったのは自分自身、異国の文化や人々に触れて沢山の経験をしてみたいという思いと、両親が僕の内気な性格が改善されればという思いがありました。イギリスへ行って沢山の人と出会ってフレンドリーに打ち解けることができた僕を両親は驚いていました。僕は女の子との会話が苦手でしたが、この企画で出会った女の子ともすぐに友達になることができました。僕はイギリスへ行き、沢山の人の出会い自分自身を磨くことができました。また、遠く離れて生活する異国の親友もできました。この企画に携わった関係者の方や両親に感謝します。この3週間の素晴らしい経験は僕の宝物です。本当にありがとうございました。

国際交流事業を終えて

川崎町 大宮 玲菜

「楽しみ！」不安という気持ちは全く無く期待で胸がいっぱい、そんな気持ちでイギリスへ出発しました。私が思い描いていたホームステイとは少し異なり、「ホームステイをやめたい」と思う時もありましたがそれも全てホームステイの魅力だと感じました。ホームステイならではの体験が沢山でき、毎日の会話で語学力を向上させることが出来たとともに数え切れないほどの素晴らしい思い出を作ることができました。

イギリス到着後、すぐに英国生と対面しました。もちろん、私が1番最初に見つけたのはローラでした。優しく微笑んでくれ、ローラの家族が「Rena？」と声をかけてくれたこと、その後にローラが恥ずかしがりながら「Hi!」と言ってくれた言葉にとても温かみを感じ、目が潤んでしまうほど嬉しかったです。しかし、車に乗り家族だけになると緊張や不安になり、共通の友達の話を出しても上手に会話が続き、「楽しみ！」から「不安」という気持ちで溢れてしまいました。

やはり、異なった環境で育った人と毎日を共に過ごすという事は難しいと痛感しました。相手の良い所だけでなく悪い部分も多々見受ける度に「～とペアを組みたかった」「～のペアはいいなあ」と自分ではいけないと分かっているでも思ってしまう自分がいました。

もちろん、楽しいことも沢山ありました。観光や買い物、どこへ行っても街並みがとても綺麗でした。また、ロンドンで観覧車に乗った時の景色はとても綺麗で素晴らしいものでした。何より1番は、沢山の人の会話です。英国生もその家族も私の話を聞こうとしてくれたり私が分かるような英語で話してくれるなど、温かい環境で楽しく会話することができました。そして私の力が試される時が突然起きたのです。ディズニーランドに行った際に萌子ちゃんが外国人に話をかけられました。自分に聞いていませんでしたが話を聞いていると私が自然と英語で対応をしていたのです。相手の方に通じた時はとても嬉しく自信に満ち溢れました。今回のホームステイの経験が活かされた瞬間でした。

今回の経験によって将来グランドスタッフになりたいと強く思うようになりました。

毎日私を笑顔にしてくれ、楽しませてくれたホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。家族やこの企画に携わった全ての方々に感謝の気持ちを忘れずにしていきたいです。

国際交流事業を終えて

川崎町 鈴木 涼

僕はこのホームステイでいろいろ学びました。その中から、2つあります。

まず、1つ目は英会話です。初めて、メーガンのお父さんと話した時に聞き取れなくて驚きました。僕は英語のリスニングぐらいの速さで話すのかなあと勝手に想像していました。しかし、想像以上に早くそして、滑らかに話してきました。その事から僕は日本人と外人が話す英語は、はるかに違うんだなあと感じました。

しかし、2日目以降から慣れはじめて家族が言いたいことも分かるようになり、伝えたいことも片言でありながら伝えられるようになりました。徐々に自分が今まで習ってきた英文を伝えられ、とても嬉しく感じました。しかし、自分は一つの疑問が出てきました。何故、日本人で英語を喋ることが出来ない人が多いのか。

色々原因があると思いますが、個人的に日本人の大部分の性格と日本の英語の教育方法だと思います。

1つ目の日本人の性格です。まず、日本ではミスをするとうとうともネガティブな評価をするところが多いように感じます。そういう文化もあり、ミスをするのが怖くなったり、恥ずかしい気持ちが生まれて来るのかなと思っています。そういうネガティブな積み重ねが日本人の完璧主義が形成されているのかなと思います。しかし、日本の方言や訛りがあるように、やはり英語を標準で話す国ごとに訛りがあります。だから、日本人も日本訛りの英語で話す事も有っても大丈夫だと思います。外人が聞き取りやすいかどうかは置いといて。なので、日本人が他の言語を話す時は、完璧主義と恥ずかしさを捨てて話せば覚えられんではと思っています。

2つ目は教育方法です。まず、英語の授業の目的として何とか話せるようになる目的のほうが強いと思います。しかし、今の英語の授業で書くと話すとでは書くのほうが比率は多いのかなと思います。確かに単語や例文を覚えることは大切だと思います。

しかし、英会話については場数をこなしていけないと上達しないのかなあとホームステイを通じて思いました。だから、話す事に重きを置くべきではないかなと思います。それから個人的に授業をやるよりは、メーガンと電話してる方が楽しく感じますし、授業よりも学べる事が多いのかなと思います。

2つ目に学んだことは日本人と外人の違いです。まず、日本人は相手の事を察し過ぎるのかなあと思いました。自分がメーガンの家族と話してるとき、こんな事言って失礼じゃないかと思ってる事を伝えないとしてもらえないことが分かりました。彼らははっきりと物事を言ってもらってから考えるので、日本のように察する事は絶対無いことが分かりました。なので外人と話するときにははっきりと物事を伝える重要性を学べたと思います。

自分は本当にこのホームステイに行けて良かったと思います。この経験を自分の生活に活かしていきたいと思います。

あの日の約束

蔵王町 笹島 のどか

不安と期待を抱きながらウェールズへ向けて飛び立った7月28日。そして、マンチェスター空港に着き、私たち日本人留学生はホームステイ先の家族が待つというホテルまで車で移動した。その途中、私はスタッブス家族や英国留学生に会えるという嬉しさと本当に自分の拙い英語が通じるかという不安で一杯だった。しかし、ホテルのドアを開けた瞬間にルースやスタッブス夫妻が笑顔で出迎えてくれたおかげで、私の胸一杯緊張していた心は和らぎ、これからの楽しい日々への期待に大きく変わっていった。

ホームステイの1日目、スタッブス家族の家に着いたその夜、夕食を食べ、リビングでくつろぎながら日本のことについて話したりなど家族団らんを過ごした。言葉でお互い詰まるところはあったかもしれないが、スタッブス家族がゆっくり話してくれたのである程度理解できた。ルースとは留学前からメールのやり取りはしていたが実際に会って話すと趣味が同じところもあり意気投合した。

2日目、朝ごはんをルースと一緒に作り、午前中は家族でショッピングに行き、午後にはハルキン鉛鉱山のウォーキングツアーに参加した。日本とは違い英国は広大な草原が広がり、普通に馬車が走っていたことに驚いた。ツアーで歩いている途中、転んでしまい、ルースが「大丈夫。」と手を差し伸べてくれときはとても嬉しかった。

3日目、主にチェスターという街中で買い物をしたが、私はオリーブとルースのグループの中で行動した。4人でボートに乗ったり、有名な教会に行ったりなどし、ルースを含め皆と距離を縮めることができた。また、平日なのに凄く賑わっていて日本人はやはり真面目なのだなどと改めて気付かされた。

4日目、ラブスプーンという色々な願いが込められている木彫りのスプーンを作り、チャーク城を訪れた。チャーク城は14世紀初頭に完成した城であり、長い歴史の間に何度も城主が変わったのだが、過去400年間はシドルトン家が数年前まで邸宅として使用してきた。そのため城の中は、城塞の部分を色濃く残したままの中世の塔や、17世紀や18世紀の邸宅デザインなど、見所が沢山あった。そして、その日の夕方にレセプションパーティーがあり、ウェールズの方々が私たち日本人留学生を温かく歓迎してくれた。私は、3町の代表として、スピーチをすることになり、正直緊張していた。しかし、会場となるホテルに着くまでの間、車内でルースの日本でのスピーチを聞き、お互い「頑張ろうね。」と励まし合ったことあり、本番では上手く話すことはできた。また、日本留学生と英国留学生が1つのテーブルに集まり、それぞれが色々な人と触れ合ったことにより話すきっかけとなったのではないかと思った。

5日目、コンフィーク城に家族で行き、本当の家族のように写真を撮ったり、街中を歩いたりした。夕方には留学生の家族が集まり、海が見えるレストランで食事をした。

6日目から8日目が2泊3日でロンドン旅行をした。初日に日本でいう劇団四季のアラジンを見て、私はとても感動させられた。もちろん全て英語で完全には理解できなかったが、演出やパフォーマンスが言葉にできないほど良かった。そして、その日、私が一番嬉しかったことがあった。それは、ルースが劇場ではぐれないようにと自分から手を繋いでくれたことであった。次の日は英国自然博物館で恐竜について学んだり、念願であったハリーポッターの舞台となったプラットフォームに行ったりした。また、バッキンガム宮殿も訪れ、実際に使われているという馬車や馬を見た。ちなみにウェールズからロンドンまでバスで6時間程かかり、車内では皆でウノをしたりして過ごした。最終日はウェールズに帰る途中でウィンドリー城の近くを訪れたりした。

9日目、ビートルズで有名やりバプールに行き、ビートルズミュージアムや近くのショッピングモールを訪れた。ビートルズミュージアムでは実際に使われていた楽器や衣装、舞台セットがあり、ビートルズの歴史を辿ることができる場所だった。昼ご飯に英国のマクドナルドに立ち寄ったが、日本と比べ注文の仕方が最新で驚いた。この日から少しずつ日本に帰国するカウントダウンが自分の中で始まった。

10日目、モールドで開催されたミュージックフェスに参加した。けれども、ルース、オリビア、キャメロンを含む私たち6人は音楽とは関係ないバドミントンをしていた。それぞれ普段は見せない顔が見られて個人的には面白かったし、スポーツを通して仲を深めることができたと思う。

11日目、オリビアの家に集まりバーベキューをした。だが、日本でいうバーベキューとは少し異なり、英国ではスライスされた肉ではなく、ハンバーグやソーセージが主であった。

12日目、あと残すも1日。本当はチェスターで買い物をする予定であったが、ルースの出発準備が思いのほか進んでおらず、出かけることはできなかった。けれども、半日家にいてずっとスタッフス家族と一緒に過ごして映画を見たり、ゆっくり食事をしたりとそのおかげで最後の1日を大切に過ごすことができた。夕方にはメーガン宅にてお別れ会をし、明日の出発に向け、早く帰った。

とうとう、最終日となり、日本へ帰国する当日。私は前日に千代紙で作ったハートと手紙をスタッフス夫妻に出発する前に渡した。彼らはそれを受け取ると同時に涙を浮かべながらハグをし、そして、頬にキスをしてくれた。この瞬間、私は家族の一員となれたのかなと思いつつ、絶対にまたウェールズに戻ってくるという決意をした。本当に感動的な別れであった。

8月10日に無事日本に帰国し、ルースたち英国生のホームステイが始ま

り、私たち家族は松島、塩釜に行ったり、神社、寺巡りをした。家族でもめったに行かない場所にルースのおかげで行くことができ新たな発見があり楽しかったし、今思い返すと毎日が充実した日々だった。

時は瞬く間に流れ、22日、ルースたちがウェールズへと旅立つ日。私たち二人はある約束を交わした。それはお互い自分の「夢」を叶えたら、2年後に再会することである。そして、家族で京都や大阪にルースと共に旅行することである。今でもなおラインを通じて連絡を毎日取り合っており、ルースはウェールズに帰国後、日本語学校に通っているそうだ。私も今、再会したら英語で言いたいことが言えるように日々勉強に励んでいる。

英国留学は私にとって凄い良い経験となった。もちろん、留学前から一人一人がそれぞれの目的を持って参加したと思う。私もその一人である。私は日本に帰ってきてから家族に「なんか積極的になったよね。」と言われた。自分では自覚はないが、確かに英国留学によって意志が強くなった気がするし、英語により興味を持てたり自分自身を良い意味で変えることができたと思う。今年の夏休みは宿題が終わりそうもなく大変であったけれど、本当に有意義な時間であった。

話が少し変わるが、今の世の中のは自分の将来について悩んでいたりと、学校生活や社会生活の中で思い悩んでいる人々が沢山いると思う。私は、そのような人々にぜひこのような留学に参加してほしいと思っている。絶対とは言えないが海外留学をすることで今までの自分の殻を破ることができ、世界へと目を向けることにより新しい発見があったり、自分の世界の視野を広げることができると思う。また、様々な人々の価値観を知ることができるので世の中を色々な視点から物事を考えることができるようになると共に、コミュニケーション能力の向上も期待できると考えている。機械化進み、誰もがスマホという便利なものを持っている若者たちは全員ではないがスマホ中毒のような人もいる。私はそのような人にも参加してほしいと思う。しかし、年齢に関係なく自分を変えたい、世界の実態や文化などを知りたい、英語を上達させたいという人々に私は今回の留学体験を通してぜひ参加することをお勧めする。必ず何かは変わるはず。私は海外留学にはお金には替えがたい価値があると思うし、様々な可能性を持っているのではないかと考える。

今回、私が英国留学できたのは家族のおかげだけではなく、蔵王町、川崎町、村田町の3町の住民のおかげである。本当に心から感謝している。私はこの経験を生かし、これからの自分の将来につなげていくとともに、いつか3町の住民の皆さんに恩返しができたらいいなと考えている。それはすぐには実現できないと思うが、いつか必ず恩返しをすることを誓う。そして、この英国留学がこれからも末永く続き、3町とウェールズの友好関係がより良いものとなり、英国留学した一人一人がそれぞれの道をしっかり歩み、世界へはばたいていくことを願っている。